

# 夏に読みたいこの一冊特集 byヨメ

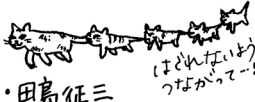
荒田珈琲  
新聞  
Vol.33  
2021.8.12(木)



夏と言えば読書! ということで、荒田珈琲の本棚から夏におすすめしたい本をご紹介します。絵本が主ではありますが、どれも心に余韻が残る良書たち。珈琲とともに、ご自由にお手に取ってみてくださいね。

## 「猫は生きている」

作・早乙女勝元 絵・田島征三



こんなに悲しいお話はない...と読後痛みがしばらく残る一冊。平和への祈りを込め、終戦記念日のある8月に読みたい本です。東京大空襲の夜、戦火は人々のつまきも温かな暮らしをあげなく、ことごとく奪っていきました。力強い挿絵とともに、降り注ぐ火の粉の中を必死に逃げる家族と里子良猫一家の様子が鮮明に描かれ、昔この本を読み開かせてくれた母が朗読中に声を詰まらせ泣いたことが忘れられません。戦争の恐ろしさ、悲しさ、むごさ、虚しさ、やりきれなさ。実体験を語る方が誰一人いなくなってしまうと、本は未来へ繋ぐ大切な語り部となっていくのだと感じます。

## 「ねないこだれだ」

言わすと知れたおばけ絵本の傑作! 昨年初版から50年たったそうです。ヨメも幼い頃から何度も読み丸暗言していて勝手に効果音まで追加できてしまいます。こんなじかんにおきているのはだ〜れ〜だ〜



## 「くいしんぼうのおおむしくん」

植ひろし作 / 前川欣三画



読み手によってさまざまな解釈がある、不思議さちょっとシュールな物語。青色色したおおむしくんが、どうしようもないくいしんぼうなのです。(そのどうしようもなさは本を見てください!) 夏の空を見上げると哭きます。もしかして... 芽たちは皆、おおむしくんのお腹の中にいるのかも!?

## 「Norman Rockwell: Pictures for the American People」

ノーマン・ロックウェル アメリカ人のためのイラストレーション  
47年間にわたり「サタデー・イブニング・ポスト」誌の表紙を描き続けたノーマン・ロックウェルの画集です。前期の古き良き明るいアメリカから 後期の社会派作品まで一貫して写実的で、人物の表情やしぐさに命が宿っているよう。とあるワンシーンをそのまま切り取ったイラストの数々を眺めるだけで楽しめる洋書です。家族で出かけた夏の一日を想像させる「Going and Coming (行きと帰り)」は日本の家庭でもあるあるな光景がおもしろい! 34ページをフェック ☺



## 「おめん」

夢枕獏作 辻川奈美絵

夏であの怪談をもう一つ。誰かの不幸を願ったときに現れるおめんを被たら...? ひらがなだけのやさしい文章が逆に怖いのです。出版されたばかりの新しい絵本ながら、細部まで丁寧に描かれた絵には昭和の懐かしさが漂います。この絵がとてつもないで何ページも行ったリ見入ってしまいました。繊細で美しいのにどこか歪んだ、不吉さに満ちているのです。ラストは背筋がヒヤッとさせられるよ...

残暑お見舞い  
申し上げます



オリンピックが終了しました。期間中は心なしか町が静まり、お店にも落ち着いた時間が流れていたように思います。8月は連日の猛暑に加えコロナ禍の緊迫した状況も続いており、くれぐれも健康第一でご自愛ください。

